

今後の課題

今回、マルチメディア方式によって聴覚障害児の補聴器および補聴器を通した音声のシミュレーションビデオ教材を開発した。しかしながら、資料における調査研究でもみられたように、聴覚障害の疑似体験及び聴覚障害理解の授業は音声のシミュレーションに留まらず、聴覚障害児とのコミュニケーションについても教材を考えていく必要がある。これには、コミュニケーションにおいて、伝わりにくさ、情報のつかみにくさが含まれてくるものと思われる。さらには、今回、開発したビデオにおけるきこえのシミュレーションについては聴覚障害児の一例にすぎず、すべての聴覚障害児がこのようにきこえるとは限らない。聴覚障害理解の授業において、このビデオを利用する場合には、このことについて徹底しておく必要がある。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、多大なるご協力を頂いた青森県岩木町立津軽中学校 葛西 恵美子（平成 12 年度国立特殊教育総合研究所長期研修員）町田市立鶴川第三小学校 豊田 弘巳、三浦 八重美、石塚 晃子、世田谷区立九品仏小学校 田嶋 恵美子、神奈川県ろうあセンター 岩崎 友子、山口 和夫、山内 浩一、町田市立鶴川第三小学校長 荒井 行雄 の各先生方、映像撮影にご協力頂いた町田市立鶴川第三小学校の先生方、児童のみなさん及び撮影をご許可頂いたあいちゃんのご両親に厚くお礼申し上げます。